

ニシキギ科植物の分類体系と花序のつき方

	分 類 群	種類	第 1 型	第 2 型	第 3 型
ニシキギ連	ニシキギ属	ニシキギ節	4	ニシキギ・リュウキュウマユミ	
		コクテンギ節	1	コクテンギ	
		マサキ節	3	マサキ	マユミ・ヒゼンマユミ
		マユミ節	5	ムラサキマユミ・アンドンマユミ サワダツ	マユミ・ヒゼンマユミ
		ツリバナ節	5	アオツリバナ	クロツリバナ
亜科	モクレイシ属	1		モクレイシ	
	ツルウメモドキ属	5		イワウメツル・ツルウメモドキ リュウキュウツルウメモドキ テリハツルウメモドキ オオツルウメモドキ	
	ハリツルマサキ属	1	ハリツルマサキ		
クロヅル亜科	クロヅル属	2			

上に述べた花序のつき方を、種ごとに分類体系と対応させながら表にまとめてみた。ただし、この表にはクロヅルは当然登場しないし、ヤンバルマユミおよびトゲマサキの2種は標本をみていないので省いてある。それによると、ニシキギ科植物の花序について

- (1) ニシキギ属には第1～第3型が認められるが、ツルウメモドキ属は第2型に限られること

- (2) ニシキギ節は第2型に限られるが、マサキ節・マユミ節・ツリバナ節には2～3型があること、したがって花序のつき方は必ずしも節の特徴とは認められないこと

- (3) マユミ節では、第1型と第3型があるが、中間型といえる第2型がないこと
などが注目される。

作図を引き受けられた山本雅道氏に深謝する。

〔植物ニュース〕114. ヒメホテイラン *Calypso bulbosa* (L.) Oakes

日本では青森県の下北・津軽の両半島と北海道の定山溪にだけ知られていた。1987年5月2日に平出暢氏と釜無で発見する。本種は、本州中部に稀産するホテイランと大変よく似ていて、うっかりすると見落してしまう。差異は唇弁の鉤部と距の先とがほとんど同じのが本種で、距の先が長く突出するホテイランと区別する唯一の差異である。本種はカラフトからシベリアを経てヨーロッパの針葉樹林に、アリューシャン、アラスカを経て、北アメリカの東部およびカルフォルニアにまで広く分布している。日本ではヒメホテイランはきわめてめずらしいものであるが、世界的には広く分布していて、これが基本種となっている。いずれにせよ、青森から釜無までとんで分布することになる。

前川文夫氏の原色日本のランによると、本種は青森で花期が5月上・中旬とあり、釜無でも5月2日にすでに花期が過ぎようとしていた。ホテイランの

花期はこの地方では5月下旬から6月上旬である。したがってヒメホテイランの方が花期が約1ヶ月早いことになる。(今井建樹)

